

Zassho no Sekai

2022.1.19 wed — 3.14 mon

家老が書き残した盛岡藩

権

書

の

世

界

会場／もりおか歴史文化館 2階企画展示室

観覧料／般300円、高校生200円、小・中学生100円、団体(20人以上)は各2割引
開館時間／9時-18時 *入場受付は17時30分まで

F020-0023 前手濱盛岡市内丸1番50号 TEL.019-681-2100 <https://www.morieki.jp/>

*盛岡市内在住で65歳以上の方、小・中学生のうち盛岡市在住・就学の方は無料
*障がいをお持ちの方やその介護をされる方(障がい者1人につき1人まで)は無料
*会期中の休館日は2月15日(火)

もりおか歴史文化館
Morioka History and Culture Museum 活性化グループ



盛岡藩家老雑書 寛永21年(1644)

◎ 雑書：書物の分類上、所属のはっきりしない種々雑多なもの

〔日本語大辞典(小学館)〕

もりおか歴史文化館には、盛岡藩の政治を主導した家老によって記録された、190冊におよぶ『雑書』が収蔵されています。これは江戸時代初期の寛永21年(1644)から、幕末に近い天保11年(1840)までの約200年間に、盛岡藩の家老が交替で記録し続けた政務日誌と呼べるもので、「盛岡藩家老席雑書」、「盛岡藩家老席日記」などとも呼ばれます。つまりこの『雑書』は、青森・岩手・秋田にまたがる広大な盛岡藩の動きを知ることができる大変貴重な資料であり、岩手県の指定文化財にもなっ

雑

書

の

世

界

家老が
書き残した
盛岡藩



ています。しかし江戸時代に書かれた記録であるがゆえに、現代の我々には解読が難しい文字・言葉で記されており、盛岡藩の歴史を知る書物としては、敷居の高い資料であることは否めません。そこで盛岡市では資料としての利便性を高めるため、多くの方々の協力によって、くずし字を現在の文字に置き換える翻刻作業を進めてきました。昭和61年(1986)からは刊本として順次出版され、ま

もなく刊行される50巻をもって、ついに翻刻出版事業が完了します。この一大事業の完了を記念して、本展では当館が誇る貴重な『雑書』と正面から向き合い、突き詰めていくことで、その資料的意義や魅力を見出してみたいと思います。

Zassho no Sekai

関連事業

1 れきぶん講座

『雑書』にみる藩主利視・利敬の時代
—盛岡藩政の転換期—

◎講師／兼平賢治氏(東海大学准教授)

◎内容／盛岡藩の「国風」に大きな影響を与えた2藩主について『雑書』から興味深い記事を紹介。

◎日時／令和4年2月27日(日) 13:30～15:30

◎会場／当館1階 研修室

◎定員／25名(往復はがきによる事前申し込み制)

*申し込み締め切りは1月31日(月)必着

2 れきぶん講座

『雑書』がない！
—消えた『雑書』の謎—

◎講師／千葉一大氏(青山学院大学講師)

◎内容／あえて『雑書』が現存しない年に焦点をあてることで、『雑書』がないことの意味を考える。

◎日時／令和4年3月13日(日) 13:30～15:30

◎会場／当館1階 研修室

◎定員／25名(往復はがきによる事前申し込み制)

*申し込み締め切りは2月21日(月)必着

3 オンラインコンテンツの配信

Youtube、SNSを用いてギャラリートーク等のオンライン配信や情報発信を行います。



Youtube



Twitter



facebook

▶ご来館の皆様へご協力のお願い／○発熱や咳、体調不良の方はご来館をお控えください。○マスクの着用をお願いいたします。○ご来館の際は受付スタッフの指示にしたがってください。



主催／もりおか歴史文化館 後援／盛岡商工会議所、中津川流域文化施設連盟「NACA」、岩手日報社、読売新聞盛岡支局、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局、河北新報社盛岡総局、盛岡タイムス社、岩手日日新聞社、デーリー東北新聞社、時事通信社盛岡支局、共同通信社盛岡支局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオ・もりおか、情報紙ゆうゆう

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸1番50号

Tel.019-681-2100

https://www.morireki.jp/



もりおか歴史文化館

Morioka History and Culture Museum 活性化グループ